

平成24年度第1回山形人材育成委員会総会議事録

日 時 平成24年10月29日(月) 15:00~17:00

場 所 ゆうキャンパス・ステーション

出席者 委員長 安田 弘法(山形大学)

委 員 金内 良一(代理)(山形県立保健医療大学)

志賀 研吾(東北芸術工科大学)

室岡 誠一(代理)(東北公益文科大学)

大川 健嗣(東北文教大学・東北文教大学短期大学部)

小嶋 隆一(山形県立米沢女子短期大学)

長谷川守男(代理)(羽陽学園短期大学)

神田 和也(鶴岡工業高等専門学校)

藤原 茂樹(山形県立産業技術短期大学校)

勝見英一朗(山形工科短期大学校)

後藤 紀夫(山形県)

小林 実(山形県市長会)

阿部 慎一(山形県町村会)

森 晃(代理)(山形県商工会議所連合会)

内藤幸太郎(山形県商工会連合会)

作田 和典(代理)(山形県中小企業団体中央会)

長岡 喬(社団法人 山形県経営者協会)

陪席者 石井 貴子(山形県)

横井 博(山形大学)

柴田 孝(山形大学)

滝澤 匡(山形大学)

事務局 鈴木 啓伸(大学コンソーシアムやまがた)

西田 靖子(大学コンソーシアムやまがた)

欠席者 委 員 伊橋 光二(山形県保健医療大学)

平松 緑(東北公益文科大学)

田中ふみ子(羽陽学園短期大学)

富田 博(山形県商工会議所連合会)

横澤 正昭(山形県中小企業団体中央会)

初めに、平成24年度大学間連携共同教育推進事業の事業推進責任者である安田弘法山形大学理事から挨拶があり、次いで横井教授から資料1-1、資料1-2に基づき、具体的な事業内容及び経過について説明があった。

協議に先立ち、大川委員から安田委員を委員長に推薦する旨発言があり、了承された。引き続き、委員長から、副委員長に大川委員と後藤委員が指名され、了承された。

さらに、議事録署名人を藤原委員及び小林委員に依頼したい旨提案があり、了承された。

#### [協議事項]

#### 1 平成24年度 山形人材育成委員会事業計画書（案）について

横井教授から資料3に基づき説明があり、意見交換の後、異議なく了承された。

##### （主な意見交換）

・差支えなければ山形大学から本コンソーシアムへの委託書、山形大学と本コンソーシアムとの間で行われた委託契約を提示してもらいたい。

→10月24日付で山形大学から本コンソーシアムに受託事業の申込書が届いている。

本委員会を経てから契約書に押印をしようと考えていたので、現時点では押印はしていない。契約後、後日、メール等で提示していきたい。

・山形大学からの委託部分の確認がほしい。そのあたり対応してもらいたい。

→山形大学の事業の一部を委託する形になる。後日提示させていただきたい。

・IRシステムの平成24年度導入は時期が早いのではないか。

→予算的な措置のタイミング等もあり24年に記載した。24年度の導入に向け、今から取り組んでいきたい。

・IRシステムの設計が命であって、ランニングし始めてから評価しようとしても大変ではないか。山形大学で導入してしまっただけでは、連携校がついていけないのではないか。

→基本的に山形大学で既に運用されているシステムを使いたい。ただし、システムの運用にあたっては各大学で実際データを入力しながら評価を行い、どう活用できるか検討することが要点となる。各大学でどのような情報を入力するのか、どういった情報が必要なのか、というような議論をしていかなければならない。システムそのものを変更することを前提にしながら導入しなくてはならない。そういう意味ではシステムそのものをどういうふうに設計していくか、ということはとても重要だが、紙面上で議論するよりも、まずは導入してみて実際に使用しながら25年度に向けて進めたい。

・24年度に山形大学に導入する、という計画では現段階で設計に入っているはず。5か月で導入を終えるのは難しいのではないか。

→山形大学は3年前からIRシステムの議論をし、工学部でテスト運用をしている。

・資料3の項目と事業内容を見ると、「○○関連事項」よりも※がついている部分の記載の方が主ではないか。

→不完全な部分があれば修正していきたい。ご指摘いただきたい。

・今後の変更、来年度以降の事業策定に研究会や部会はどのように関わっていくのか。

→開講予定の4つの講座を3つに減らすなど、大枠を変更するのは無理であるが、内容に関する修正や変更は可能である。いかに目標に近づけるような取組みを行うかという視点で、連携機関の皆様のご意見をいただきたい。

## 2 平成24年度山形人材育成委員会収支予算書(案)について

資料4に基づき大学コンソーシアム事務局より提案があり、意見交換の後、異議なく了承された。

(主な意見交換内容)

・大学コンソーシアムの委託事業経費が少なすぎるのではないか。

→開講する4つの講座については各大学の経費で動かすため、各大学の経費として積算している。各部会の開催や各先進事例の調査に係る経費などを共通経費として積算し、概ね400万円を計上している。

・あくまで主体は主担当校で、大学コンソーシアムは連絡調整や会議の場だと理解すれば提案された予算(案)も納得できる。

→金額の大きさが役割の大きさではない。それぞれの大学が持っている機能を勘案し、またお互いにバランスよく事業を推進する必要がある。(例:各大学では事業を実施できるが、評価や計画の立て直しは本委員会で担当する)

・3,900万円のうちの一部が裏面の400万の予算書と見てよいか。

→別枠ではない。

・次年度以降は主担当校以外にも予算が配分される可能性はあるのか。

→可能性としてある。

その他

各連携機関のプロジェクトの関わり方について、資料2に基づき説明があり、大学コンソーシアム事務局から、各部会及び各チーム参加委員の推薦願いたい旨依頼があった。

(主な意見交換内容)

・3つの部会の役割と連携機関の関わり及びその意図について、それぞれ別の人間がいい

のか、同一人物でもよいのか等教えていただきたい。

→連携機関の皆さんにまずお願いしたいのは、評価並びに総会の出席であり、さらに企画運営部会においてご意見を賜りたい。また、共同教育部会等にも任意でご参加いただきたい。さらに具体的な内容等については、今後、要綱に役割等の記載が詳細について提案する。

・人選するうえで、どういった人材を置くべきかガイダンスしてほしい。

・委員は、要求されてどう対応する必要があるのか明確にしてほしい。

→各部会などの役割に関しては要綱や申請書などを整理して提示する。その後の人選については各組織の規模などもあるのでお任せしたい。

・現場サイドか役職サイドかなどの区分けをしてほしい。

→そのように対応する。

・単位互換はどこでやるのか、IR システムの評価や導入はどのプロジェクトで行うのか等事業の内容と各プロジェクトチームとの関係について説明してほしい。

→単位互換は大学コンソーシアムでやってきたことをそのまま引用したい。IR システムの評価、導入、研究は基本的には IR システム評価チームで進めたい。

・部会担当者など全員推薦するのか、担当部会等のみの推薦でよいのか。

→基本的には申請書作成段階から担当していただいた方の範囲でお願いしたいが、さらに参加をしていただけるのであればぜひお願いする。

以上

## 【配 付 資 料】

資料 NO なし	山形人材育成委員会名簿
資料 1 - 1	平成 2 4 年度大学間連携共同教育推進事業の申請書
資料 1 - 2	平成 2 4 年度「大学間連携共同教育推進事業」選定状況
資料 1 - 3	平成 2 4 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）交付申請書
資料 1 - 4	平成 2 4 年度「大学間連携共同教育推進事業」の交付内定について（通知）
資料 2	山形人材育成委員会の設置要項
資料 3	平成 2 4 年度 山形人材育成委員会事業計画書（案）
資料 4	平成 2 4 年度大学間連携共同教育推進事業収支予算書（案）及び平成 2 4 年度山形人材育成委員会収支予算書（案）
資料 NO なし	山形人材育成委員会 部会及びチーム担当者推薦書

議事録署名人

山形大学理事・副学長

安田弘法 

山形県立産業技術短期大学校副校長

藤原茂樹 

山形県市長会事務局長

小林 実 

